B 156　高校生の服装に対する意識と男女共修における被服教育の方向（第3報）

―――男女共修にむけての高校における被服教育の内容について―――

岐阜女大家政　○大喜多佐代子　奈良女大家政　中川早苗　県立会津短大
松浦悠紀子　文化女大家政　万江八重子

目的　急速に進展している社会に対応できるような知識や能力の育成が求められ、高校の新しい家庭科教育においてもその内容の見直しが進められている。本研究では、男女が共に興味をもち学ぶ意欲が持てるような被服教育のあり方をさぐるために、現代の高校生が被服教育にどのようなことを期待しているのかを調査し、男女生徒が共に自己の個性や創造性を発揮できるような心豊かな衣生活を営むために必要な内容について検討した。

方法　調査の概要は第1報と同じである。質問項目は被服教育で学びたいこと、服装に関しての知りたい知識や情報、コンピュータへの関心とそれを使って学びたいこと、などである。調査データは項目別に単純集計、男女、学年、地域別にクロス集計を行った。

結果　現行の家庭一般でとりあげられている衣生活の内容をどの程度学びたいと思っているか、という質問に対しては、男女共に学びたいと答えたものの第1位は「着方が上手にできること」（71.3％）第2位は「既製服の選び方や組み合せ方」（69.1％）学びたくないと答えたものの第1位は「被服の機能」（78.4％）被服製作に関しては男女間で大きな差異がみられた。知りたい知識や情報では男女共に「自分に似合う服について」（88.2％）、「個性的な着こなし方、組み合せ方」（79.7％）をあげている。コンピュータに関しては男女共に関心が高く、被服教育への導入を期待しているものが多い。以上の結果を総合すると、現代の高校生は被服教育に「自分に似合う個性的な着こなし方や組み合せ方」「既製服の選び方や組み合せ方」などについての学習を強く望んでおり、これからの男女共に学ぶ新しい被服教育の内容に、感性教育や消費者教育が重要なことが明らかになった。